

国土交通大臣賞（作文 小学生の部）

「土砂災害にあわないために」

宮城県 岩沼市立岩沼西小学校 四年 石田 奈月

県政だより8月号に、宮城県の土砂災害ハザードマップができたので、自由に見られると載っていました。そのことをお母さんから聞いて、ぼくは、見せてもらいに行くことにしました。宮城県は、たて続けに2回も大きな地震があり、土砂災害が心配されているからです。九州の土砂災害が、テレビで大きく報道されたこともあり、あんなことになったらどうしようと、とても気になっていたのです。

県庁まで行かなくても、岩沼市役所で見られるそうなので、お母さんに電話しておいてもらって、ぼくは一人でバスに乗って、市役所に行きました。市役所には、三年生の時に社会見学で行っているの、一人で不安はありませんでした。

土木課の岩間さんが、ぼくの相手をしてくれました。ハザードマップのぶ厚いコピーをくれたので、ぼくは感激しました。宮城県は、小・中学生が勉強のために調べに来た時は、こういうサービスを行っているそうです。

ハザードマップを詳しく調べるのは、帰ってからにすることにして、ぼくは岩間さんにいろいろ質問しました。岩沼市では土砂災害防止のために、梅雨の時期の前に県で決めた地区のパトロールや、そこに住んでいる人に広報活動をしているそうです。

ぼくの家はすぐ近くには、山を半分だけけずり取ってしまったところがあって、残りの半分がくずれてくるんじゃないかと心配です。残った方の山の木が折れてぶらさがっていて、ぼくの目にはとても危険に見えます。あそこは危ないのかどうか聞きました。あの山は、個人の所有物で個人の判断で管理しているものなので、市ではなんとも言えないとのことでした。よその人の物でも、他の人に危険だったら、なんとかできないのかなあと思いました。

帰って来てからハザードマップで、ぼくの家付近を調べてみました。ぼくが心配していた山は、危険区域になっていませんでした。ちょっと安心しました。でも、ぼくの家はすぐ近くに土石流危険区域が2ヵ所もありました。がけ崩れのおそれありの場所もひとつありました。目で見える山ばかり、気にしている場合ではなかったのです。

九州の土砂災害の時に、土砂が家を丸ごと飲み込んだとか、後で遺体が3メートルの高さの木の上にひっかかっていたとかいう報道を見て、ぼくは土砂災害の時とはなりの平等団地に逃げようと考えていました。平等は、ぼくの住んでいるところより高いところにあるので、安心だと思っていたのです。ところがハザードマップで確認してみると、平等団地にのぼっていく階段のところの土手が、がけ崩れの危険エリアだったのです。

まだ問題点がありました。土砂災害にあった時の避難所は、岩沼西中学校です。でも、マップによると西中学校に行くまでの道が土砂でうまるおそれがあるのです。また、家より高いところに逃げる時に必ず通る道も、土石流危険区域にかかっています。これでは、逃げられません。マップでは、自宅にいる時に付近で土砂災害にあった時は、あわてて逃げた方が危険だということがよくわかりました。

次に、ぼくは、岩沼市内を順番に調べてみました。岩沼西小学校のあたりは、安全でした。ぼくの家では、土砂災害がおきたら、あわてて逃げないこと、逃げる時は、危険区域の道路をさけて、まっすぐ西小学校にむかうことに決めました。

ぼくの学区は、危険区域がたくさんあります。他の学区には、ほとんどありません。なんだか損した気分です。でも、よその学区は洪水や津波の心配があるそうです。どこに住んでいても危険はあります。ぼくは、ハザードマップをみんなに見せてあげたいです。

国土交通大臣賞（作文 中学生の部）

「父の仕事から」

静岡県 富士市立岩松中学校一年 鈴木 栄弥

「今日の富士山は、雲がかかっていなくてきれいだね。」

日本一の山 - 富士山。そのふもとの富士市に、私は住んでいます。富士市から見る富士山と富士宮市の朝霧から見る富士山には違うところがあります。朝霧からは、大沢川の上流にある大沢崩れがみえる点です。古い山ですから、毎年崩れているのです。もっと崩れて、土石が流れ、私たちに被害をもたらしたり、富士山の美しさが失われてしまったらと考えると、いてもたってもいられません。

日本の国土の七十パーセントが山です。山の多くは、川の水や雨、風などに削られやすい土質でできているので、梅雨や台風などで大雨が降ると、弱い土が水を含み崩れます。

夏休みに入ってすぐ、九州中南部に大雨が降り土石流やがけ崩れが起きました。その時の新聞を見て最初に目に入ったのは、「豪雨二人死亡二十人不明」でした。大雨で土石流が起き、被害にあったのがもし私だったら、家ごと土石に飲み込まれたらと思うと、とても怖くなりました。そして、土石流が起きると死者を出すほどの被害をもたらすこともあるのだと、改めて実感しました。

「ゴーゴー、ドドド、ドーン」

テレビでも、勢いよく土石が流れ、道路をふさいでしまったり、家の屋根や壁が流されてしまっている様子を見ます。

「大雨が降っています。土砂崩れに気を付けてください。」

このような注意もよく聞きます。私たちの身近で、富士山の大沢川でも土石流が発生しているので、注意を聞くと、心配になります。大沢崩れは、千年前から崩れ始めたといわれています。二十年間の平均では、毎年二十万立方メートルの土砂が崩れ、それは一日、大型ダンプトラック、百台分に相当するそうです。

私の家は、三代続いている砂利店です。砂や砂利や土などを、採取し選別して売っています。特に砂は自慢です。それは角がなく丸いからです。子供達が、手足で遊ぶ砂場等には最適です。痛くなく、さらさらとしているからです。私の学校の砂場も、この砂を使っています。生コンクリートにも、丸いのでぎっしりとして強度のものができるので、いいそうです。そうした砂などは、私の店では山を買って、自分の山から採っています。山を切り崩して採るのも、山に対して量が決まっています、それ以上は採りません。そして、採った後も木を植えて、緑の山に戻します。私は以前、家業が地球を削っているのではないかと心配したことがあります。今は違います。ただ、山を崩しているのではなく、土砂災害が起きない様に採り方などを工夫するだけでなく、土砂災害を防ぐ仕事にも従事していることを知ったからです。

我が家は、土木建設の工事もやっていて、その関係で父は、富士山の除石工事の仕事を昨年引き受けました。ダンプを何十台も使って、毎日砂防ダムによってたまった土砂を運びます。仕事は何より、安全第一です。雪道を走るのも、いつもより注意が大変だったそうです。住民に迷惑をかけないように、環境を破壊しないように気をつけていたそうです。平成十二年十一月に大沢川で土石流が発生しましたが、大沢遊砂地があったので、災害を未然に防ぐことが出来ました。父の仕事は、その次に発生する土石流に備え、除石工事をする床固工除石工事でした。遊砂地や沈砂地でためて止めなければ、土石流は民家をおそい、川に流れ、大規模な被害を受けるのです。それを防ぐ仕事を父はしているのです。環境や自然を守ると同様に、工事も必要なのだと思いました。父の仕事は決して地球を削っているわけではありません。父は、土砂災害の被害をなくす手伝いをしているのです。

私は、（今までお父さんが、こんな工事をやっているなんて知らなかった。まして、土

砂災害から私たちを守るために砂防工事をしている人がいるなんて。)と、初めて知ってびっくりするとともに、今まで私たちを災害から守ってくれていた人たちがいたことに、気づかなかった自分を恥ずかしく思いました。このような工事が行われていなかったら、富士川の方に土砂が流れてきて、その土砂によって、大きな被害をもたらされたでしょう。春先に大雨が降ると雪もいっしょにとけて、もっと大きな被害をもたらすでしょう。

私は、父の仕事を誇りに思うとともに、人々に被害をもたらすだけでなく、自然にも被害を与えている土砂災害の原因と実状を、もっと知らなければと思いました。同時にみんなを守るために日夜土砂災害を防止する仕事をしてくれる人がいることも、忘れてはいけないと思いました。